

令和7年度 赤穂市学校(園)評価 外部評価

学校園名 赤穂市立高雄小学校

1 本年度の学校(園)経営方針

認め合い 学び合い 夢に向かって進む 児童の育成

- 互いのよさに気付き、認め合い、共に伸びていこうとする集団づくりを実践する。
- 少人数の強みを生かし、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実により、自ら学ぼうとする児童の育成を図る。
- 「地域のあかり」となる学校を目指し、地域学校協働活動を推進するとともに、ふるさとを大切にす児童の育成を図る。

2 本年度の学校(園)重点目標

- 豊かな心の育成
- 確かな学力の育成
- 命・体・心を守る力の育成
- ふるさとを愛する心の育成
- 「働きやすさ」と「働きがい」の両立をめざした職場づくり
- 保護者や地域に信頼される学校づくり

【総合的な学校園関係者評価】

- 児童や親の声をしっかり聞いてくださり、改善に努めてくださっている。
- 明るい笑顔で、校門で迎えて下さっているのが安心できる。
- それぞれの個性を尊重し、のびのびと教育して下さっている。
- 業務改善の最中において、友人関係が築けない児童の相手をして下さり大変感謝している。
- 教職員の情報の共有化を知ることができた。社会の多面的な状況に対応する先生方も大変だと思うが先生方が力を合わせ早期対応により健全育成を引き続きお願いする。
- モルック大会ドッジボール大会に先生達が参加して下さることで、更に楽しいものとなったようである。元気で素直な児童が高学年として今後高雄小を盛り上げてくれることでしょう。
- 少人数の特性を生かし、一人一人をしっかり見て下さり、落ち着いた教育活動を展開している点が評価できる。
- 小規模校ならではのきめ細やかな特色ある学校づくりを目指し、学校を中心に地域等の関心のある方々を取り入れた取組が随所に見られた。今後とも地域挙げて学校、児童等に更に関心等をもっていただき、学校が身近な存在になればと思う。
- 高雄の自然にも着目し、ハマウツボを未来へつなげる活動をしている。また、地域の方々と連携して参加させていただける機会をつくって下さっている。
- オープンスクールや音楽会などを開催して、保護者だけでなく地域住民も学校行事に参加できるよう開かれた学校運営ができています。
- 「高雄の空」の発行、ホームページでの公開で月次ごとの児童の様子が生き生きと伝わり楽しく見させてもらっている。
- 高学年になると図書室の本を借りづらくなるようなので、学級文庫の質を高めていただけるとありがたい。
- 地域との連携は継続されているが、活動内容の発信や保護者への説明の充実により、より信頼される学校づくりにつなげてほしい。

3 自己評価結果 (A~D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない ×:適切でない

観点 (重点目標)	評価項目(学校園・教師の取組)		評価資料	達成状況	改善の方策	自己評価 は適切か	改善方策 は適切か	課題と来年度具体的改善方法
	項目	指標						
(1)豊かな心の育成	項目	①人権教育の推進	A	A	③支援が必要な児童の特性について共通理解し、効果的な指導が行えるよう改善を図った。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、医療と連携を図り、多層的な支援を行った。次年度は、支援計画をもとに、特別支援学級と学級担任との連携を更に深め、個別支援の充実を図っていく。	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> いじめととらえるケースがあると聞く。当事者の認知度にもよるが今後とも子どもたちに寄り添った指導により「声なき声」に耳を傾けていただき、表面的外観的な面だけではなく、当事者の立場、気持ちになり実態本質等を引き出されるような対応をお願いしたい。 キャリア教育の推進で、地域との関わりはあるが、系統的なキャリア形成の視点での取組の整理が必要である。 支援が必要な児童に対して、具体的なアクションができるようになってよかった。子ども教室やアフタースクールにも対応の仕方やコツなど具体的に教えていただくため、連携をはかりたい。 不安のある子どもの不登校の状況は把握していませんが先生の努力が実になっていると感じている。 目立つことを恐れ、スクールカウンセラーを利用しづらい児童もいる中、適切なタイミングでレジリエンス授業を実施いただいた。 キャリア教育の際に先生に救われた経験を元に教職に憧れを抱くことができた。
	指標	自尊感情や自己有用感、他者を思いやる心情を全ての教育活動を通して育てている。	A					
	項目	②いじめ・不登校問題への組織的な対応	A					
	指標	いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努めたり、不登校問題にチーム学校として対応したりしている。	A					
(2)確かな学力の育成	項目	③特別支援教育の充実	A	B	①個別最適な学びと多様な他者との協働のモデルとなる授業を参観し研修を深めると共に、指導案の形式を工夫し職員のスキルアップを図っていく。 ②基礎学力の定着のため、自分の学びを	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の活用は進んでいるが、学習効果の向上につながる活用方法が必要である。 授業数の減少に伴い、学力の低下が危惧される。子ども教室でも、基礎的な計算でのつまずきが見られる。家庭の協力や理解も必要である。
	指標	全教職員の共通理解のもと、きめ細やかな指導・支援及び合理的配慮の提供を行っている。	A					
	項目	④キャリア教育の推進	A					
	指標	地域の方を招いての体験活動等を通して、なりたい自分に向けて努力する児童を育成している。	A					
	項目	①「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業の創造	B	B	①個別最適な学びと多様な他者との協働のモデルとなる授業を参観し研修を深めると共に、指導案の形式を工夫し職員のスキルアップを図っていく。 ②基礎学力の定着のため、自分の学びを	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の活用は進んでいるが、学習効果の向上につながる活用方法が必要である。 授業数の減少に伴い、学力の低下が危惧される。子ども教室でも、基礎的な計算でのつまずきが見られる。家庭の協力や理解も必要である。
	指標	主体的・対話的で深い学びに通じる学びの個別最適化と多様な他者との協働に努めている。	B					
	項目	②基礎・基本の力の定着と向上	B					
	指標	Tタイムを効果的に活用することで、漢字・計算等の基礎学力の定着を図っている。	B					
	項目	③ICTを活用した学習活動の日常化	B					

	指標	「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実に向け、ICTを活用している。			自分のことばで振り返る機会を設けていく。 ③ICTを活用して他校との意見交流や発表会を積極的に行うため、ICT支援員を活用し教職員の技術的なサポートを行う。			・学習指導要領に基づき行われていることが感じられた。 ・①は自分の言葉で話すことができないと実現し得ない。大人が見本となり学べる機会があるとよい。環境を調整することで、苦手な子にも広げられる。
(3)命・体・心を守る力の育成	項目	①体育・保健学習の充実と日常的な運動や遊びによる体力づくり	B	A	①体育の時間のはじめ5分を体力作りの時間として活用し、体力の向上を図る。 ②今年度、不審者対応訓練を行った。スキルの向上のため今後も研修を行う。	◎	◎	・不審者対応訓練ありがとうございます。 ・子ども教室では外遊びが好きな子が多く、休み時間もよく遊んでいるだろうと感じる。 ・手洗いの習慣が身につく声かけをお願いしたい。 ・防災教育をより実践的な内容に発展させることが必要（簡易トイレ、段ボールベット、100円ショップでそろう防災グッズなど）
	指標	主体的に体力の向上を図ったり、自らの健康に留意したりする児童の育成に努めている。	A					
	項目	②健康・安全面の充実	A					
	指標	教育相談・危機管理体制の充実を図っている。						
	項目	③家庭と一体となった生活習慣の改善と確立	A					
	指標	「早寝・早起き・朝ごはん」運動を通して、家庭への啓発を行い、基本的な生活習慣の定着を図っている。						
(4)ふるさとを愛する心の育成	項目	①地域学校協働活動の推進	A	A	①今年度、ハマウツボフォーラムを行い、学校と地域、保護者が双方向で交流することができた。総合的な学習の時間のカリキュラムの見直しを進め、地域と共に学ぶ関係づくりを進めていく。	◎	◎	・学習との関連付けを明確にする必要がある。 ・ハマウツボフォーラムが大変勉強になった。小学校でのことは原風景として記憶に残る。自分の育った地域を大切にしていくなを育む「ハマウツボ」をこれからも大切にしていってほしい。 ・ハマウツボの学習活動を通じて、児童たちが高雄の自然を大切にしていくなを育て、さらに次の学年に引き継ぐんだという強い気持ちをもっていると感じている。 ・学校・保護者の人員の入替を経ても地域の中に長く携わってこられた方々がいたからこそ良い交流会になった。准教授の来校も好奇心をかき立てられたことと思う。
	指標	地域の人、自然との関わりの中でふるさとと高さを愛する心を育てている。	A					
	項目	②地域・家庭との連携	A					
	指標	保護者、地域、幼稚園、中学校との連携を進めながら、よりよい教育活動を行う環境を整えている。						
(5)「働きやすさ」と「働きがい」の両立をめざした職場づくり	項目	①業務改善の推進	A	A	①今後も業務改善のアイデアを募り、教師が子どもと向き合う時間の確保につとめる。 ②数年先を見越したカリキュラムの見直しを進め、チーム担任制の深化を図る。	◎	◎	・先生間での情報共有が全てだと思う。「チーム学校」として頑張ってください。 ・働き方改革に伴い、欠員や不足する先生方の中での学校運営となっているが、創意工夫をしながら児童達の指導健全育成にあたっていただき、保護者や関係者等感謝いたしております。大変かと思いますがよろしく願います。 ・先生という仕事は多岐にわたり大変だと思う。教員不足もあるが、やりがいを感じ働きやすい仕事になってほしい。そして、子どもたちが大きくなったら先生になりたいと思ってもらえたらと思う。 ・業務の効率化や役割分担の見直しが必要である。
	指標	定時退勤日・ノー会議デーの完全実施、業務改善のアイデア募集を通じて、働きやすく、働きがいのある職場づくりを行っている。	A					
	項目	②教職員の協働体制の確立	A					
	指標	教職員一人一人の能力・適性を生かした人員配置や「チーム学校」としての組織的な対応を心がけている。						
(6)保護者や地域に信頼される学校づくり	項目	①教職員の資質向上	B	B	①個々の教職員が得意分野を生かし、ミニ研修を積極的に行っていく。また、日常的に互いに授業を見合う機会を推奨する。そのことによって、共に学び合い成長できる教職員集団を育成していく。 ②今年度より学校評価のシステムを見直し、評価結果を生かして改善の方策が練られるよう工夫した。来年度も継続していく。	◎	◎	・保護者との意見交換の機会を増やすことが、望まれる。 ・保護者だけでなく地域の方も来られるオープンスクールが多く開催されたのがよかった。小規模校の存続という問題が出ている以上、地域の方への理解や自分の地域にある学校という思いをもってもらうのは大切である。オープンスクールが開かれたものとして来校者が増えるとうい。子どもは「地域の宝」なので。 ・評価向上のみではなく目標として「楽しく」「明るく」「働きやすい」学校であってほしい。 ・音楽会の観客席の配置が見やすかったので続けていただきたい。指揮はあえて堅いものにさせていただきました。中学年の愛らしい姿と伸びやかなリズムは大事にしていきたい。
	指標	授業公開や講師招聘研究授業等の校内研修の実施、個々の教職員の研究と研鑽により資質の向上を図っている。	B					
	項目	②学校評価の充実	B					
	指標	保護者や学校運営協議会委員の評価結果を生かして、教育活動の改善を図っている。						
	項目	③危機管理体制の確立	A					
	指標	毎月の安全点検、危機管理研修等の実施により、危機管理体制の確立に努めている。						
	項目	④積極的な情報発信	A					
	指標	学校・学年だよりやホームページ等による積極的な情報発信を行うと共に授業参観、学校行事等の学校公開の機会を適切に設けている。						

自己評価における特記事項

評価資料の数値は、評価平均点を示しており、下記の点数で自己点検を行い、教職員数で平均している。
 4 よくできた 3 できた 2 あまりできなかった 1 できなかった
 自己評価資料は、自己点検の平均4～3.5をA 3.4～3をB 2.9～2.5をC 2.4以下をDとしている。
 職務が異なる場合は、評価項目がすべて当てはまるとは限らない。

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

・家庭教育学級など外部講師からの学びは、今は難しいと感じる内容でも大人になるにつれて、いつか点と点が線になる時が来るので、参加者が少なくても続けられよう。
 ・基礎学力向上のため学力分析をもとにした具体的な対策
 ・保護者アンケート結果を活用し、学校運営に反映させる。
 ・いつも児童に寄り添って下さり、信頼関係を築いてくれているので、安心して任せられる。ありがとうございます。